

平成27年度第6回 岡山市総合教育会議

日 時:平成27年12月1日(火)

午後2時～

場 所:市庁舎 第3会議室

会 議 次 第

1 開 会

2 協議事項

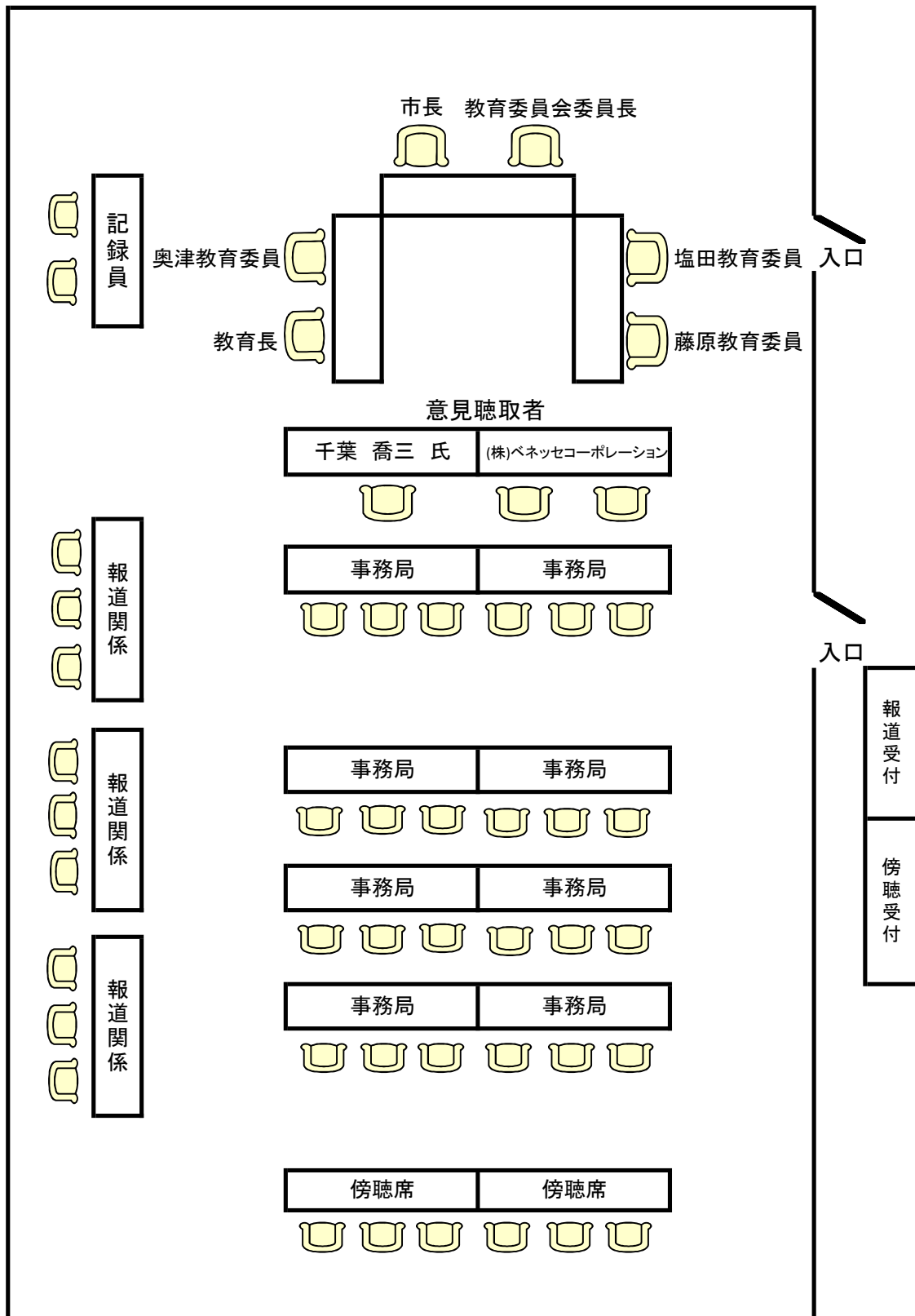
(1) 有識者からの意見聴取について

学校法人就実学園 理事長 千葉 喬三 氏

(2) これまでの会議の経過等について

3 閉 会

第6回総合教育会議 配席図



平成27年12月1日

第6回 岡山市総合教育会議資料

株式会社ベネッセコーポレーション

第1回

- 岡山市の教育の実態についての教育委員会からの報告について協議
- 次回以降の会議のポイントについて確認

第2回

- 教育委員会の取組に関する報告について協議
- ベネッセから、今後の教育の方向性、問題行動、学力、教員の負担という視点で報告

第3回

- 有識者からの聴取(創志学園理事長)
- ベネッセから学習の動機付けについての報告

第4回

- 関係者からの聴取(小中校長会代表者)(指導課教育支援室)
- ベネッセから業務改善ガイドラインをもとにした報告

第5回

- 有識者からの聴取(関西福祉大学長)
- ベネッセから全国学力・学習状況調査の分析の報告

これまでの5回の岡山市総合教育会議では、

「学力向上」

「問題行動等」

「教員の負担軽減」

を主なテーマとして議論してまいりました。

第6回の岡山市総合教育会議では、これまでの会議におけるご意見やご発言、使用した資料の整理を行いました。

学力向上

授業力の向上

「岡山っ子学力向上推進チーム」の設置

- * 全国学力・学習状況調査の分析を基にした授業改善の推進
- * 各中学校区の岡山型一貫教育推進をコーディネート

○授業これだけは！

「めあての提示」「考え・表現する場面の設定」「振り返り」のある授業づくりを徹底し、子どもの読解力・表現力の向上を目指す。

○まさかっどプリント

岡山市の教員作成の算数のプリントを小学校全校で実施し、誤答の分析等を授業改善に生かす。

○指導教諭の活躍

指導力の高い教師が授業づくりの支援を行う。

○好事例に学ぶ

教諭，指導主事を他県に派遣し，好取組を市内に広める。

家庭学習の充実

○家庭学習事例集の活用

教員研修の実施と保護者啓発を行う。

○スマホ等の使用のルールづくり

学校，保護者，児童生徒が話し合っってルール作りをする。

課題

全国学力・学習状況調査においては、小学校算数Bを除き、すべての教科科目で全国平均を下回っている。特に中学校における下回る割合が高く、改善の兆しも薄い。

現在できていると考えられる事項

- ・中学校では積極的に校内研修を実施している
- ・少人数指導が充実している
- ・めあてやねらいを提示し、まとめや振り返りを行う授業が徹底している

改善が必要と考えられる状況

- ・校内研修には積極的だが、学校外の研修への参加は十分とは言えない
- ・全国学力調査の結果の学校全体での共有と活用が十分ではない
- ・中学校では私語が少なく、落ち着いているとは言えない
- ・校内の授業を見回る校長が少ない
- ・高い講師比率(特に中学校)
- ・一定の文字量の文章を書くことに苦手意識を持っている児童生徒が多く、記述問題に対して最後まであきらめずに取り組む児童生徒が少ない
- ・長時間テレビやゲーム、スマホを利用している児童生徒が多い

課題

全国学力・学習状況調査において、小学校算数Bを除き、すべての教科科目で全国平均を下回っている。特に中学校における下回る割合が高く、改善の兆しも薄い。

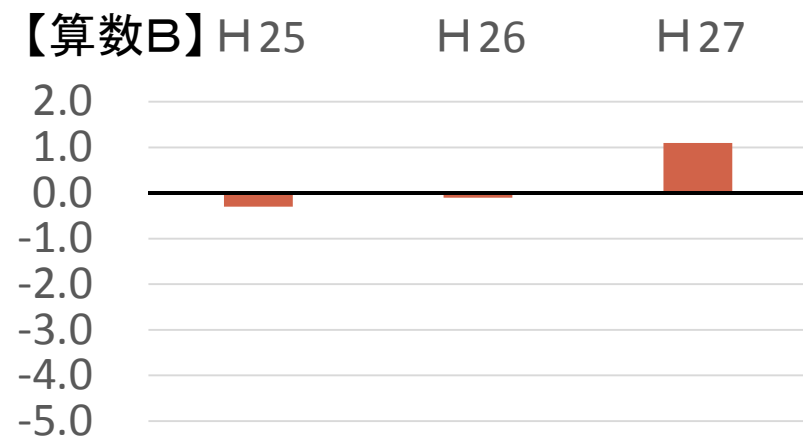
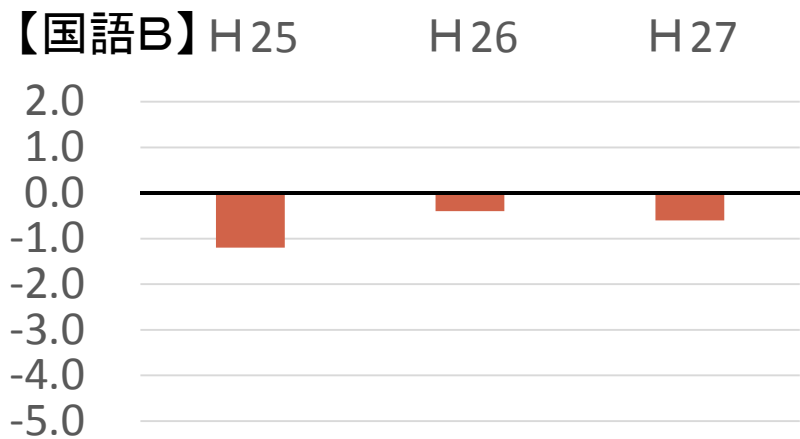
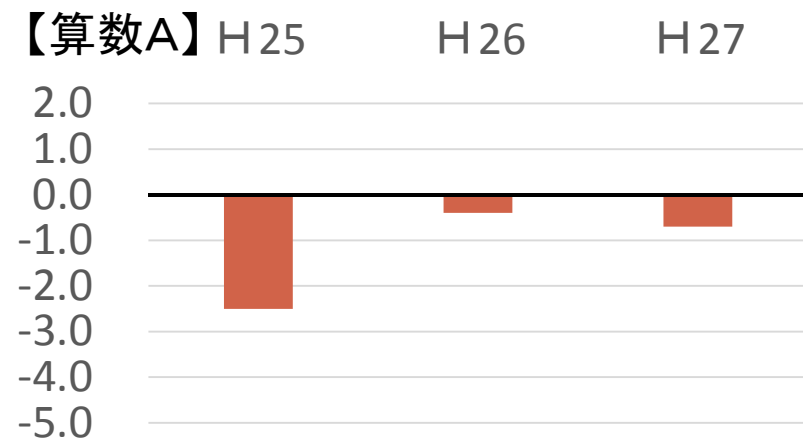
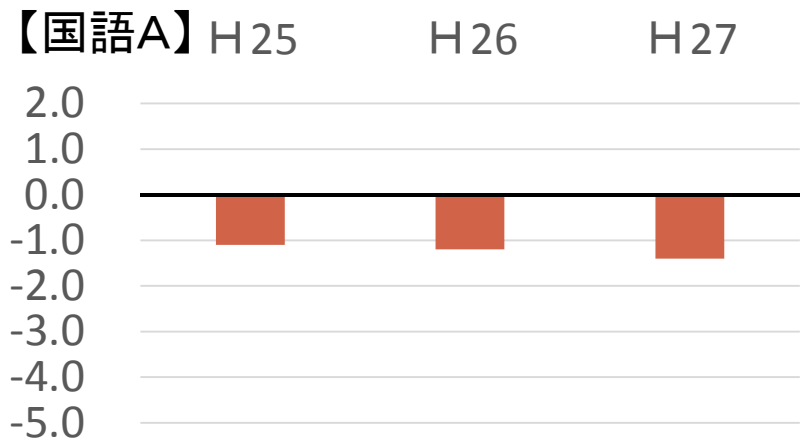
【平成27年度調査結果 全国比較】

小学校	岡山市	全国	差
国語A	68.6	70.0	-1.4
国語B	64.8	65.4	-0.6
算数A	74.5	75.2	-0.7
算数B	46.1	45.0	1.1
理科	60.3	60.8	-0.5

中学校	岡山市	全国	差
国語A	73.9	75.8	-1.9
国語B	62.1	65.8	-3.7
数学A	63.0	64.4	-1.4
数学B	37.7	41.6	-3.9
理科	73.9	75.8	-1.9

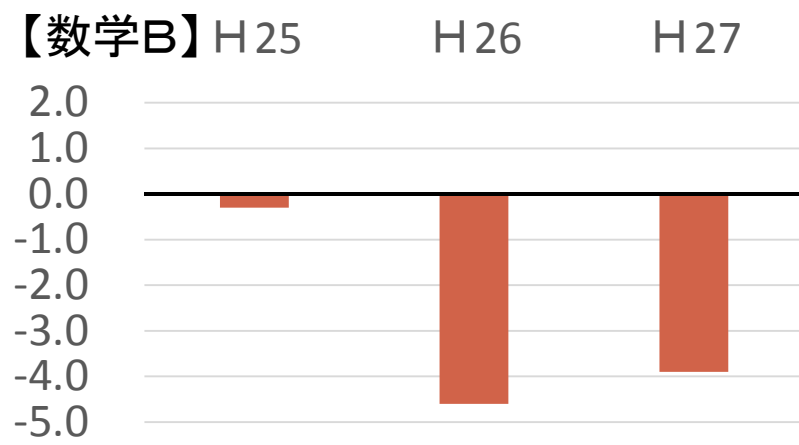
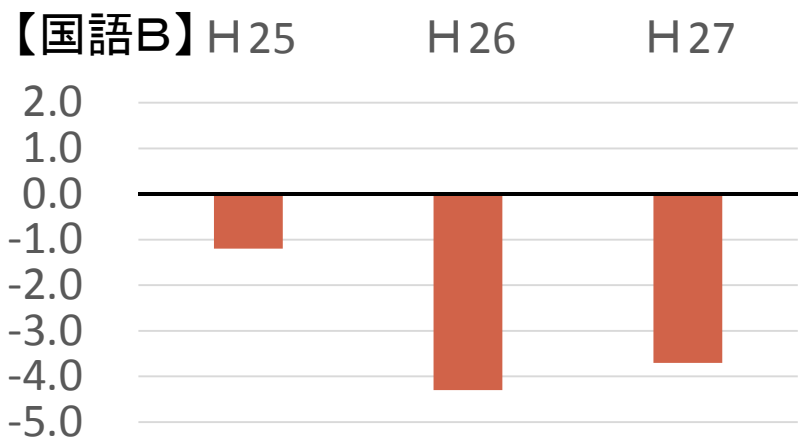
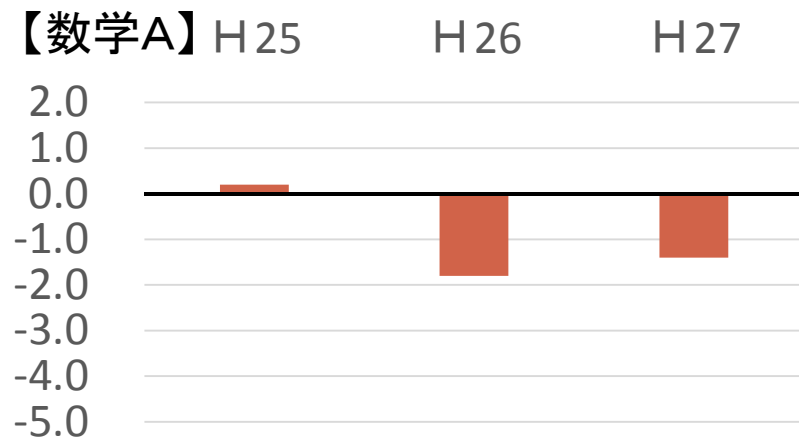
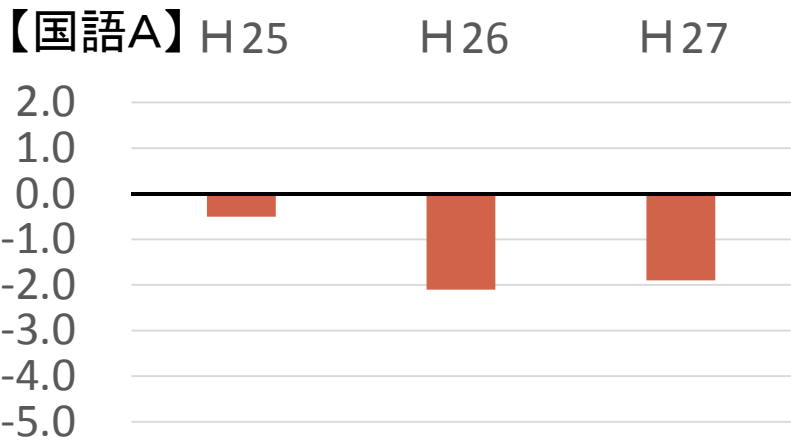
いずれの教科においても大きく全国を下回るものはない。算数Bにおいては、全国を上回る。

全国平均正答率との差の3か年推移【小学校】



昨年よりは若干下回る割合は改善されてはいるが、大幅な改善までには至っておらず、昨年と同じ傾向のまま。

全国平均正答率との差の3か年推移【中学校】



現在できていると考えられる事項

・積極的な校内研修の実施

学校質問紙		岡山市	全国
学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか(よくしている)	小学校	55.7%	64.2%
	中学校	55.3%	43.1%

・少人数指導の充実

学校質問紙		岡山市	全国
調査対象学年の児童生徒に対して、算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか(年間の授業の半分以上で実施)	小学校	52.3%	32.4%
	中学校	36.8%	25.3%

・授業でめあてやねらいを提示し、まとめや振り返りを行う授業

学校質問紙		岡山市	全国
調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れましたか(よく行った)	小学校	86.4%	71.1%
児童質問紙		岡山市	全国
5年生までに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか(当てはまる)	小学校	79.3%	66.6%

改善が必要と考えられる状況

・校内研修には積極的だが、学校外の研修への参加は十分とは言えない

学校質問紙		岡山市	全国
教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか(よくしている)	小学校	35.2%	56.6%
	中学校	36.8%	44.2%

・全国学力調査の結果の学校全体での共有と活用が十分ではない

学校質問紙		岡山市	全国
平成26年度全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校全体で成果や課題を共有しましたか(よく行った)	小学校	39.8%	48.3%
	中学校	31.6%	40.4%

「平成27年度全国学力・学習状況調査 調査結果資料」(文部科学省)

改善が必要と考えられる状況

・私語が少なく、落ち着いているとは言えない

学校質問紙		岡山市	全国
調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか(その通りだと思う)	小学校	38.6%	38.5%
	中学校	34.2%	49.3%

・校内の授業を見回る校長が少ない

学校質問紙		岡山市	全国
校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか(ほぼ毎日)	小学校	38.6%	64.1%
	中学校	23.7%	42.5%

「平成27年度全国学力・学習状況調査 調査結果資料」(文部科学省)

改善が必要と考えられる状況

・高い講師比率(特に中学校)

<小学校>

都道府県	講師比率	国語A順位	国語B順位	算数A順位	算数B順位
奈良	14.0%	25	40	20	26
大阪	13.1%	41	45	35	40
三重	13.0%	46	46	44	41
長野	12.9%	28	16	17	11
京都	11.9%	23	18	9	8
福岡	11.9%	32	36	31	30
兵庫	11.8%	26	29	31	19
岡山	10.2%	38	32	29	38
宮崎	10.0%	16	38	27	42
大分	9.9%	18	13	10	19
岡山市	9.8%				

<中学校>

都道府県	講師比率	国語A順位	国語B順位	算数A順位	算数B順位
三重	16.0%	41	40	25	33
大阪	15.7%	46	46	42	40
岡山市	15.3%				
福岡	14.6%	37	37	38	36
和歌山	14.5%	44	45	37	41
岡山	13.9%	39	43	41	45
大分	13.7%	20	32	30	39
奈良	13.5%	34	29	14	16
宮崎	13.0%	37	32	16	22
佐賀	12.6%	41	41	45	43
鳥取	12.5%	23	26	22	24

※31位以降の都道府県に網掛け

「平成26年度学校基本調査」(文部科学省)
 「平成26年度全国学力・学習状況調査 調査結果資料」(文部科学省)
 岡山市提供データ

改善が必要と考えられる状況

- ・一定の文字量の文章を書くことに苦手意識を持っている児童生徒が多く、記述問題に対して最後まであきらめずに取り組む児童生徒が少ない

児童生徒質問紙		※岡山市 上位校	岡山市 下位校
400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しい と思いますか(そう思う)	小学校	29.9%	38.9%
	中学校	37.3%	45.9%
児童生徒質問紙		岡山市 上位校	岡山市 下位校
【中学校】今回の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する 問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか(全ての 書く問題で最後まで解答を書こうと努力した)	国語	83.9%	65.9%
	数学	62.3%	39.4%
	理科	64.3%	38.6%

※岡山市内の成績上位20%、下位20%の学校を抽出して集計し、選択肢1(トップボックス)の選択率を比較。そのため、それぞれの質問項目においては、「上位校と下位校で取組や指導内容の違いの大きいもの」という見方となる。

改善が必要と考えられる状況

・長時間テレビやゲーム、スマホを利用している児童生徒が多い

【1日に3時間以上テレビを視聴している割合】

■小学校

順位	都道府県	割合
1	大阪府	40.5%
2	福岡県	39.7%
3	北海道	39.6%
4	大分県	39.4%
5	奈良県	39.2%
6	愛知県	39.1%
7	京都府	38.0%
8	山形県	37.7%
9	石川県	37.5%
	岡山市	35.3%
34	岡山県	34.1%

■中学校

順位	都道府県	割合
	岡山市	35.5%
1	京都府	35.4%
2	和歌山県	35.1%
3	滋賀県	34.7%
4	大阪府	34.5%
4	奈良県	34.5%
6	岡山県	34.2%
7	神奈川県	33.7%
8	山梨県	32.5%
8	愛知県	32.5%
8	岩手県	32.5%

改善が必要と考えられる状況

【1日に4時間以上テレビを視聴している割合】

児童生徒質問紙		岡山市 上位校	岡山市 下位校
普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビやビデオ・DVD を見たり, 聞いたりしますか(勉強のためのテレビやビデオ・DVDを見る時間, テレビゲームをする時間は除く)	小学校	14. 1%	27. 3%
	中学校	14. 6%	20. 8%

【1日に4時間以上ゲームをしている割合】

児童生徒質問紙		岡山市 上位校	岡山市 下位校
普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム (コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	小学校	6. 1%	13. 5%
	中学校	8. 8%	19. 6%

【1日に4時間以上通話やメール, インターネットをしている割合】

児童生徒質問紙		岡山市 上位校	岡山市 下位校
普段(月～金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム (コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	小学校	2. 5%	5. 1%
	中学校	6. 7%	17. 5%

学校・児童生徒に係わるご意見等

- **学校が楽しく**ならないと成績は上がらない。
- 一番にすべきことは**授業改善**, **教員の意識改革**。子どもが楽しいと感じる, わかったと言える授業をすることが大切。退屈している子はいないか。
- 授業づくりで**大切なのは結果**。結果がだめならだめ。結果を見て, プロセスの改善をしていかなければいけない。要は子どもが賢くなったか, 力がついたか。4月に受け持った生徒が3月にどう育っているかで評価される。
- **単元ごとにいいテスト問題**を先生方で作り, 確認テストを定期的にやり, 誤答の分析をして, 教え直しをする。
- **褒める言葉・励ます言葉**を学習者に返すことも大事。これはモチベーションが上がる。わかった, 問題が解けた, その上に担任の先生に認められるから。
- 学びの場づくり, 学級づくりのベースができていない学校が下位校にある。**個別の学校改革・授業改革**を推進する体制をつくるのがポイント。
- 自己決定が**自己効力感**につながる。今日はこれを我慢して勉強に向かうということ自分で決め, 自分で振り返り, 自分で動くことを習慣化させる。
- 全国学力調査で岡山市は正答率が低く, 無解答率が高い。**途中であきらめず**力を出し切ろうよという基本的な指導が必要。
- できてない子, **学習習慣がついていない子に焦点**を当てた対策が重要。

地域・家庭に係わるご意見等

- 生活習慣と学力との相関がある。家庭に対して何が大切なのか発信すべき。
- 内発的動機づけが下がってくる中学生への保護者からの働きかけが重要。
- 規範意識, ならぬことはならぬということを小さいときから積み重ねていく風土づくりが、遠いようでも近い。
- 家庭学習の時間が生み出せない状況にある。まずはスマホの規制。部活, 通塾の適正な見直しなど生活の改善が不可欠。

問題行動等

<未然防止>

共に成長し合う学級集団づくり推進事業

- ・学級適応感を測る検査を学級集団づくりに生かす。

<早期発見・早期対応>

不登校児童生徒支援員配置事業

- ・不登校の兆候が見られる子どもに、登校時の付添いや別室登校等の支援を行う。

スクールカウンセラー配置事業

- ・「心の専門家」である臨床心理士等を配置する。

いじめ専門相談員派遣事業

- ・専門相談員によるいじめの対応に関する助言や相談支援を行う。

<深刻化防止>

教育相談室・適応指導教室整備事業

- ・教育相談及び不登校児童生徒の学校復帰，社会的自立を目指した支援を行う。

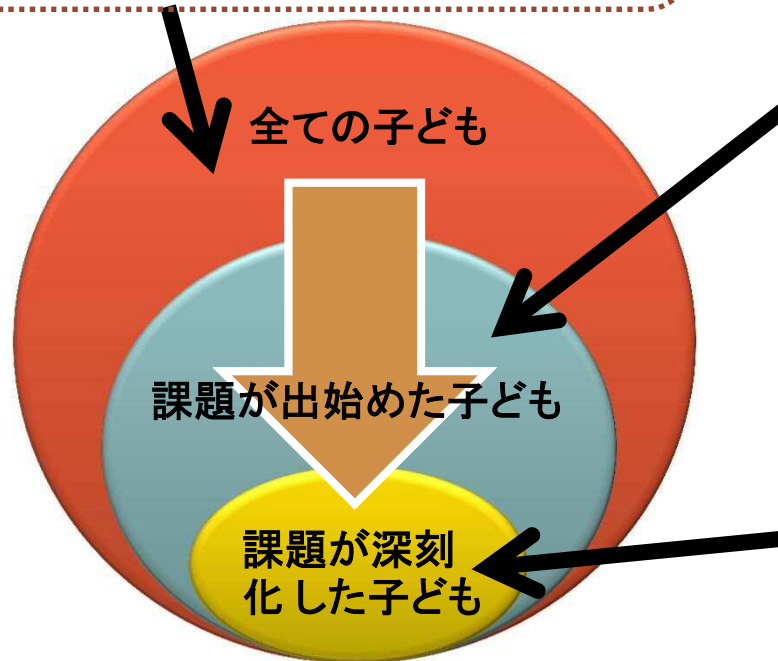
学校問題解決サポート事業

- ・解決困難な学校問題についての助言を行う。

<調査・検証>

問題行動等対策事業

- ・問題行動等の要因の洗い出しや対策についての審議，いじめの重大事案についての調査を行う。



課題

暴力行為の発生件数は、他の都道府県と比較すると依然高い水準となっており、特に中学校で課題が大きい状況にある。

現在できていると考えられる事項

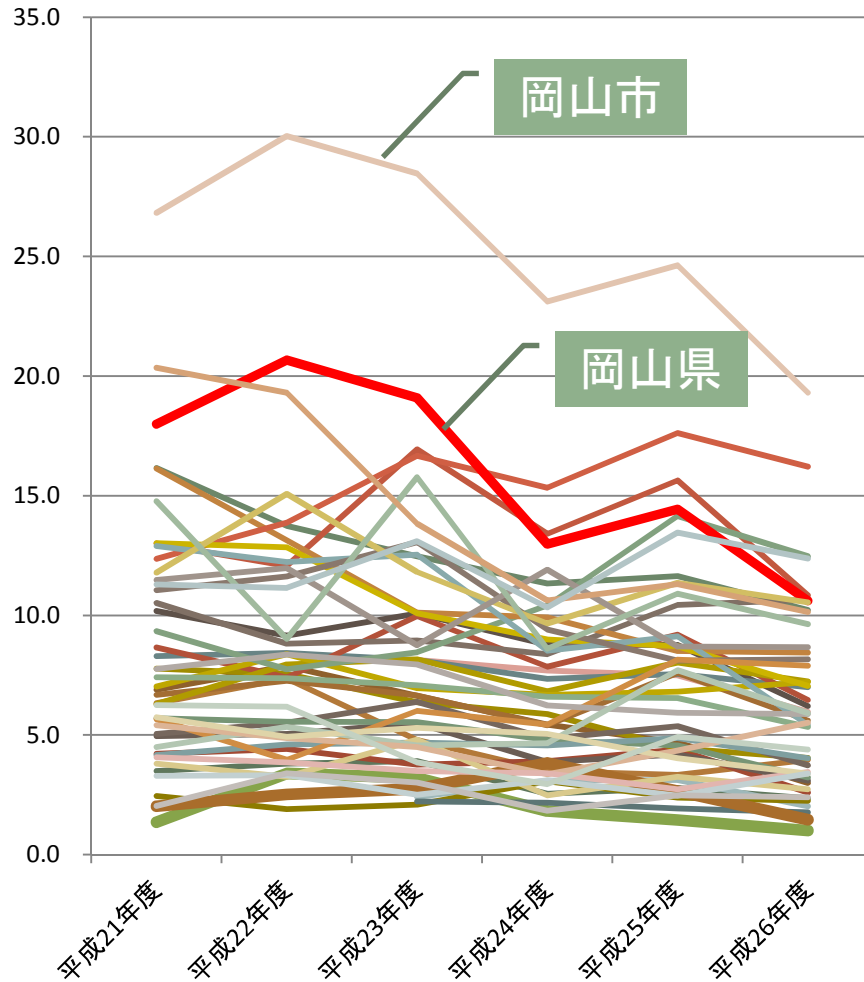
- ・暴力行為の発生状況は、平成22年度をピークに改善が進み、平成26年度は過去6か年で最も発生割合が低い。
- ・「学校のきまりを守る」「人の気持ちの分かる人間になりたい」という結果においては、全国とほぼ同じ傾向であり、岡山市全体としての課題は見られない。

改善が必要と考えられる状況

- ・岡山市全体としては、調査結果からは、規範意識等にあまり課題が見られないことから、暴力行為の発生状況、発生場所、発生原因等やその行為に至った背景についての分析を通じた指導の重点化を行う必要がある。

小中高校生の暴力行為

岡山県の児童・生徒1万人当たりの病院で治療を受けた暴力行為の発生件数(小中高生)は減少しており,岡山市も同様の傾向である。



小学生・中学生とも改善しているが,依然中学生の課題が大きい。

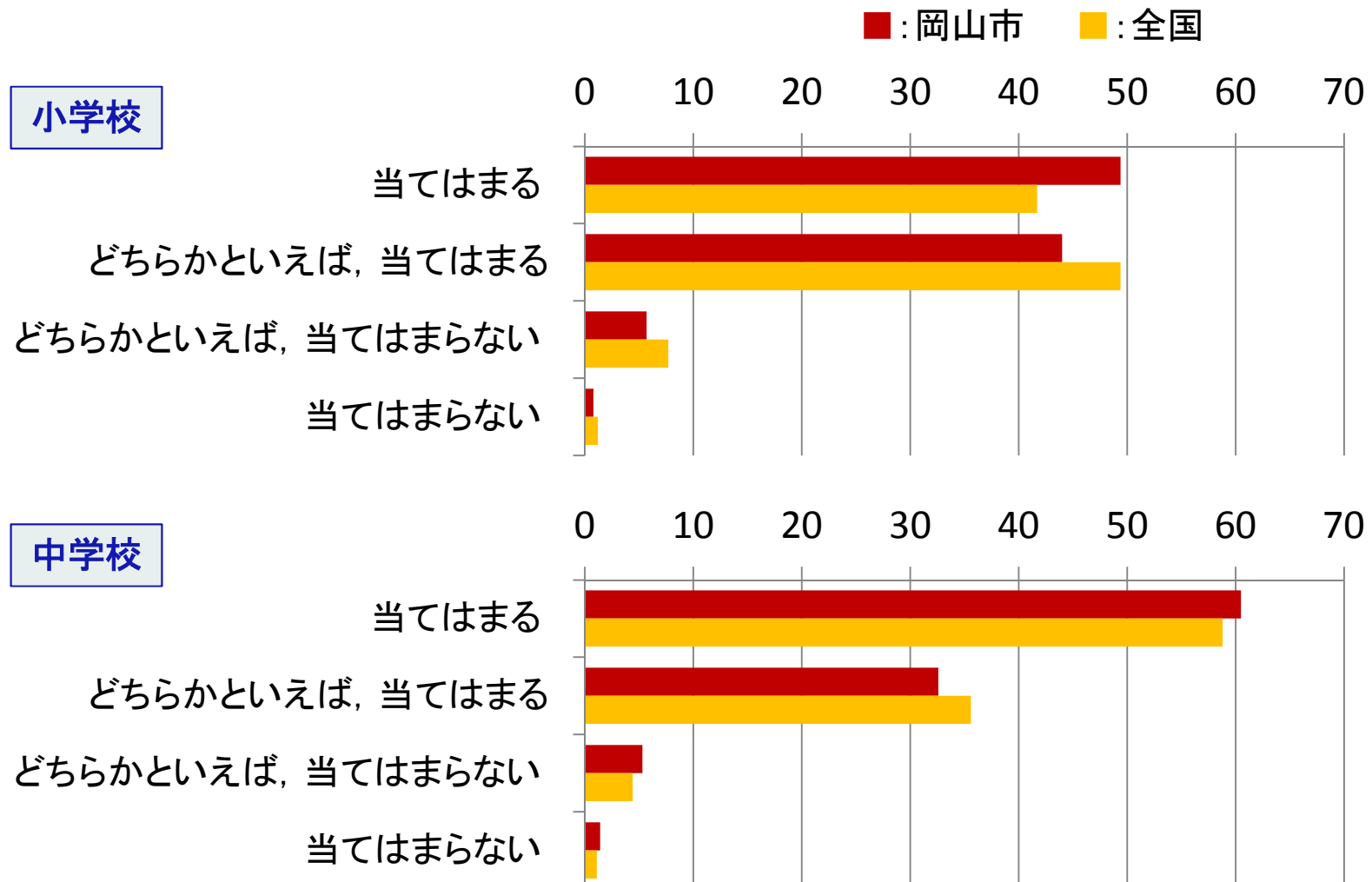
	病院治療件数						H26 1万人当 たりの発 生件数
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	
岡山市小学生	28	32	31	27	36	26	6.8
岡山市中学生	139	154	144	114	113	83	45.2
その他	237	272	246	144	168	120	7.5
県全体	404	458	421	285	317	229	10.5

「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)より作図

※最新のデータにより改訂

肯定的に回答した割合は、全国と比べて大きな違いは見られない。小学校においては、「当てはまる」の割合が全国を上回っている。

【学校のきまりを守っていますか】



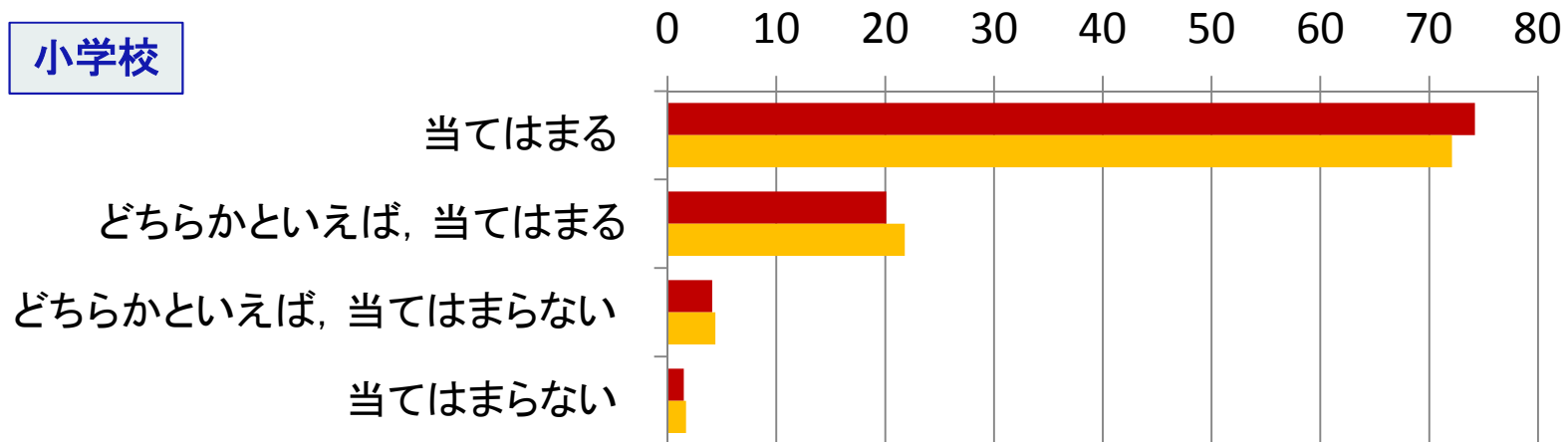
「平成27年度全国学力・学習状況調査 調査結果資料」(文部科学省)

人の気持ちが分かる人間になりたいかどうかの質問においては、小学校、中学校ともに、ほぼ全国と同様の傾向。

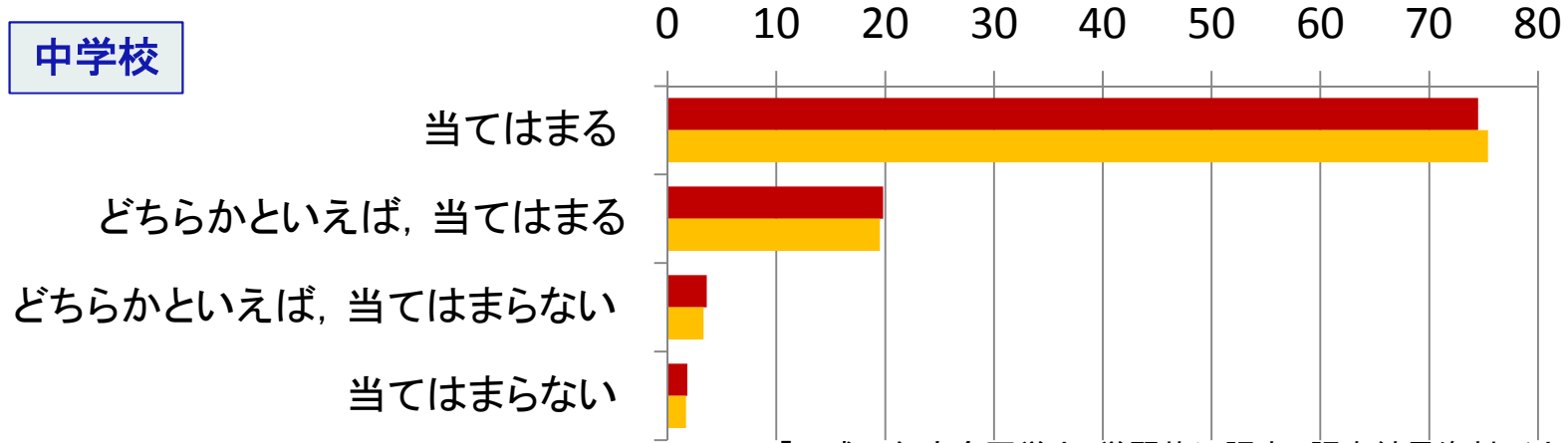
【人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか】

■ : 岡山市 ■ : 全国

小学校

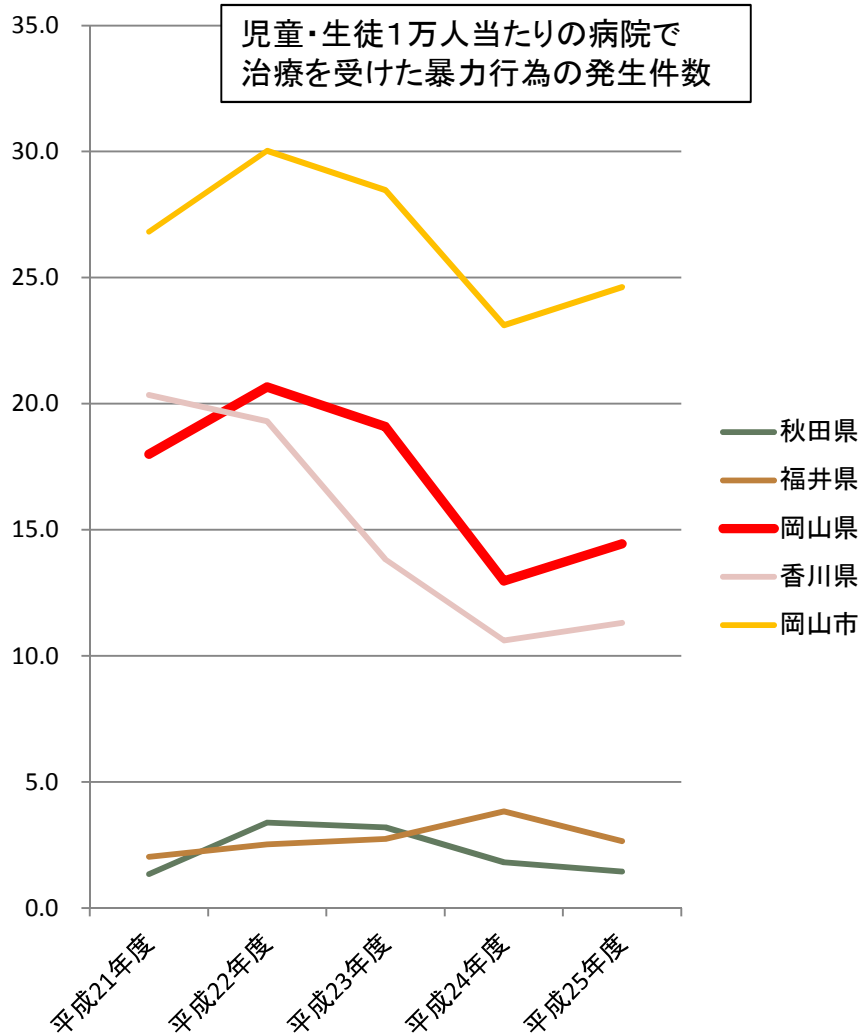


中学校



「平成27年度全国学力・学習状況調査 調査結果資料」(文部科学省)

岡山県よりも大きく低減させている県をモデルとして事例を研究

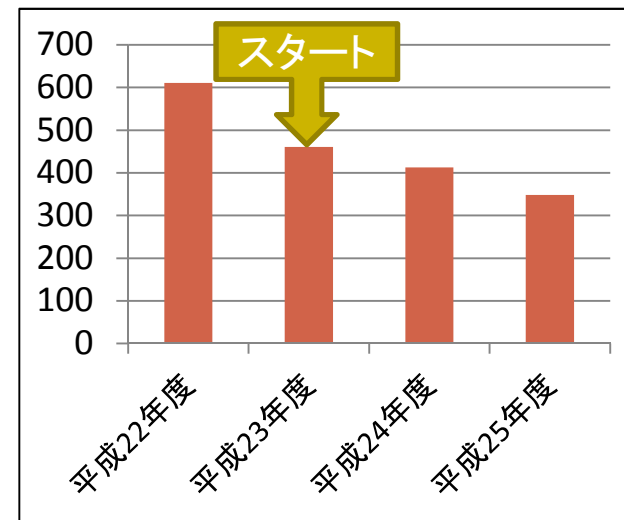


「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)

香川県の取り組み例

- 「かがわ青少年育成支援ビジョン」策定
 - スクールソーシャルワーカーの拡充
 - 「かがわマナーアップリーダーズ」(公募により登録した中学生による、「あいさつ運動」「クリーン作戦」「非行防止キャンペーン」などの活動)
- 主体: 児童生徒健全育成等連絡協議会
(香川県 県教育委員会 県警察本部 香川大学)
事務局: 県警察本部少年課

香川県中学生の検挙・補導状況



「かがわマナーアップリーダーズ通信 平成26年7月 第43号」より

問題行動の低減のために②

香川県において低減の度合いと相関が高い学校での取り組み(全国学力学習状況調査 中学校学校質問紙)を見ると、「地域との関わり」「校長の授業観察」「学習規律」「教職員間の協力」が上位に。「因果」関係ではないが、**ありがたい学校像**としてとらえたい。

質問事項		H21	H22	H24	H25	相関係数	H26
(75)PTAや地域の人 が 学校の諸活動(学校の美化など)にボランティアとして参加してくれますか	香川県	32.9	34.6	47.9	44.4	-0.9899	39.7
	岡山県	38.6	48.9	46.2	50.9		51.5
	岡山市						57.9
(71)調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、 地域の人材 を外部講師として招聘した授業を行いましたか	香川県	9.2	9.2	15.7	13.9	-0.9825	13.2
	岡山県	12	11.8	13.7	16.6		6.1
	岡山市						5.3
(72)調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、 ボランティア 等による授業サポート(補助)を行いましたか	香川県	0	1.8	4.2	2.8	-0.8975	1.5
	岡山県	2.4	3.2	5.4	8.6		6.1
	岡山市						5.3
(99) 校長 は、校内の授業をどの程度見て回っていますか	香川県	44.7	41.7	48.2	55.6	-0.7904	58.8
	岡山県	10.8	14.9	14.4	44.2		34.4
	岡山市						50.0
(74)職場見学や 職場体験 活動を行っていますか	香川県	97.4	96.4	98.2	100	-0.7816	100
	岡山県	98.2	98.9	100	99.4		99.4
	岡山市						100
(35)調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、 学習規律 (私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話を する 、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底しましたか	香川県	53.9	52.9	55.1	54.2	-0.7771	64.7
	岡山県	47.6	51.1	53.9	55.2		51.5
	岡山市						55.3
(91)学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、 教職員同士が協力 し合っていますか	香川県	28.9	29.2	39.3	30.6	-0.7300	44.1
	岡山県	22.9	34	28.3	23.9		38.7
	岡山市						47.4
(96)学校の教育目標やその達成に向けた方策について、 全教職員の間で共有 し、取組に当たっていますか	香川県	32.9	45.6	52.5	44.4	-0.7250	41.2
	岡山県	34.3	42.7	36.3	44.8		46
	岡山市						50.0

学校・児童生徒に係わるご意見等

- 暴力行為の発生率，不登校の出現率ともに，岡山市は国，県よりも高い状況。中学校に入ってふえている。
- 荒れている学校で改革をしたところでは，判を押したように挨拶と掃除，マナーを重視したことで学校が落ちつき学力も上がっている。
- 校内暴力を絶対許さないという毅然とした姿勢で問題解決に臨むべき。
- 言語体験が薄いと自分をうまく表現できず，それが暴力行為や不登校につながるケースが多いのだろう。

地域・家庭に係わるご意見等

- 問題行動，不登校と学力との相関が見られ，その背景には日本の階層化，家庭での会話，夫婦関係，経済力などが指摘されている。
- 子どもたち自身がどうしたいかを考えさせることが大事。学校の中で閉じないで市全体でそれを支援していくところもポイント。
- 楽しかったら学校は休まない。何で学校を休むのか。それは楽しくないから。理由はいろいろだが実は家庭の問題も大きい。

教員の負担軽減

主な取組

○各種支援員の配置

○教育委員会からの発出文書の削減

○学校業務アシスト事業

教員が行っている業務(事務処理等)の一部をアシスト職員が行う。

○部活動サポート事業

外部指導者を派遣することで、部活動顧問の教職員の負担を軽減する。

○学生ボランティア

・登録者数 2,007人(H26年度末)

・個人が登録

・主な活動内容

教育活動支援(授業補助等)

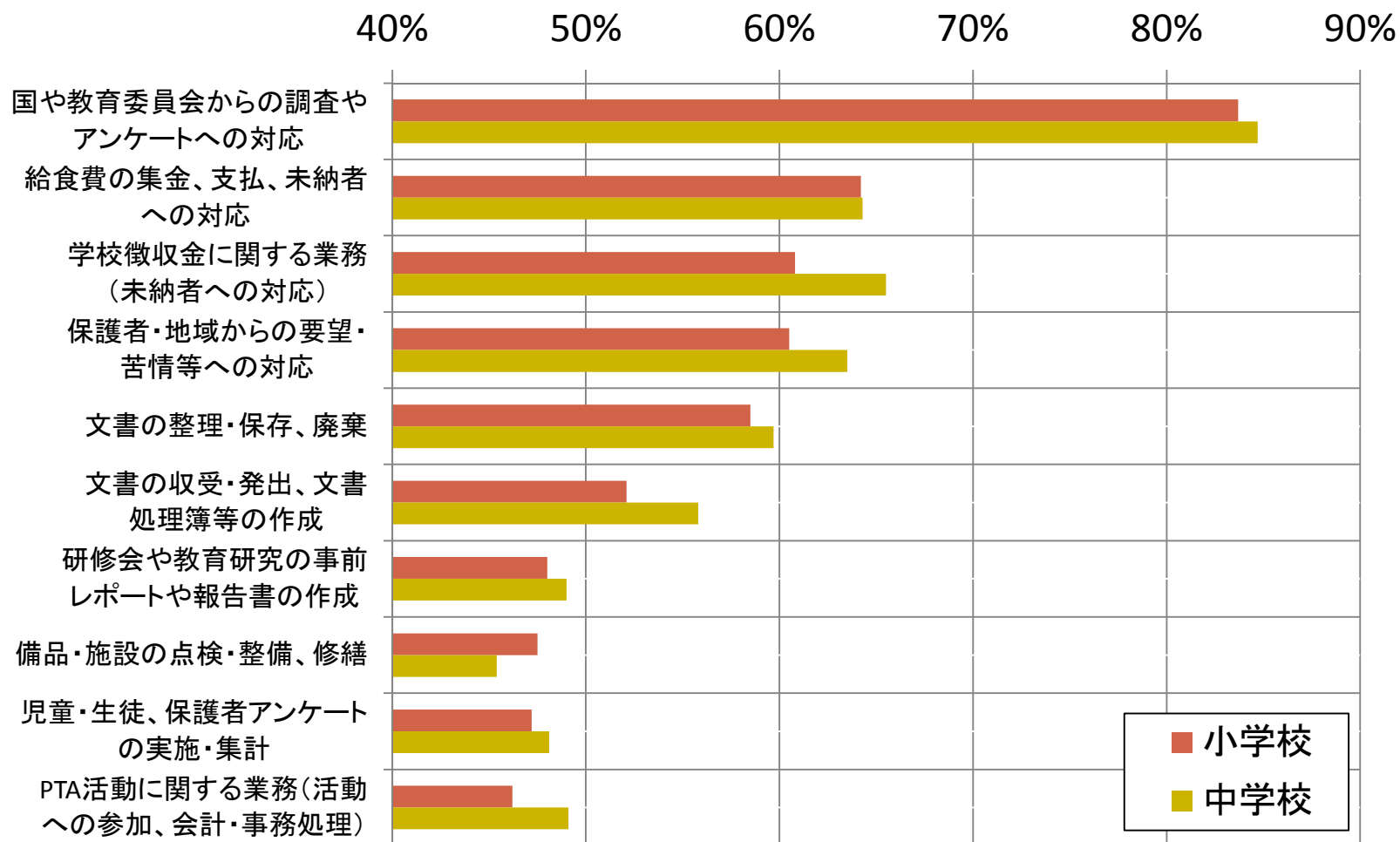
環境整備支援(花植え, 運動場整備等)

安全対策支援(登下校時の見守り等)

土曜学習等, 地域での子どもの学力向上に係る取組

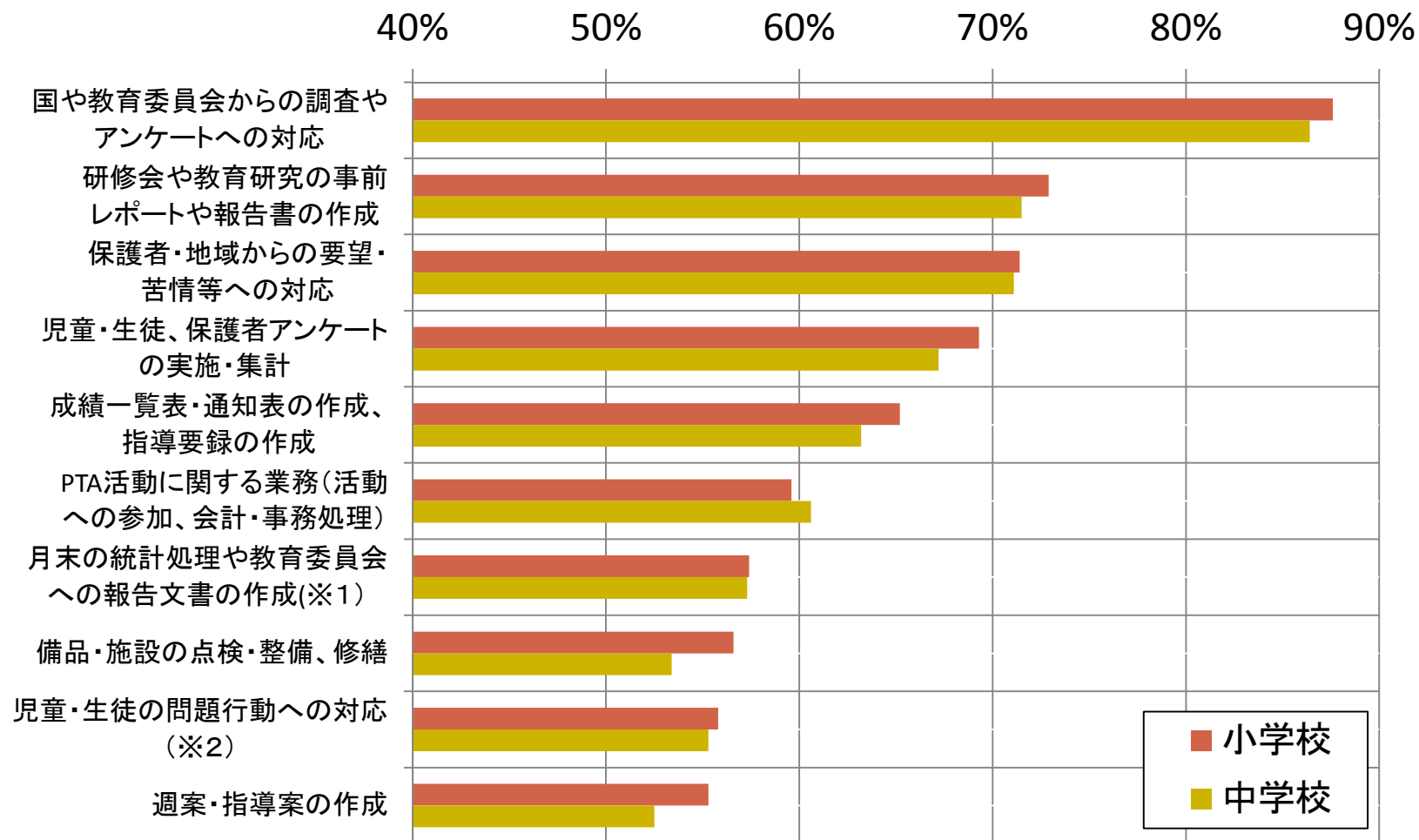
調査やアンケート対応の他、お金に関わる業務、文書の整理・作成の負担感が高い。

【小学校中学校に共通する負担感の高い業務】



調査やアンケート対応の他、研修報告書、保護者対応の負担感が高い。

【小学校中学校に共通する負担感の高い業務】

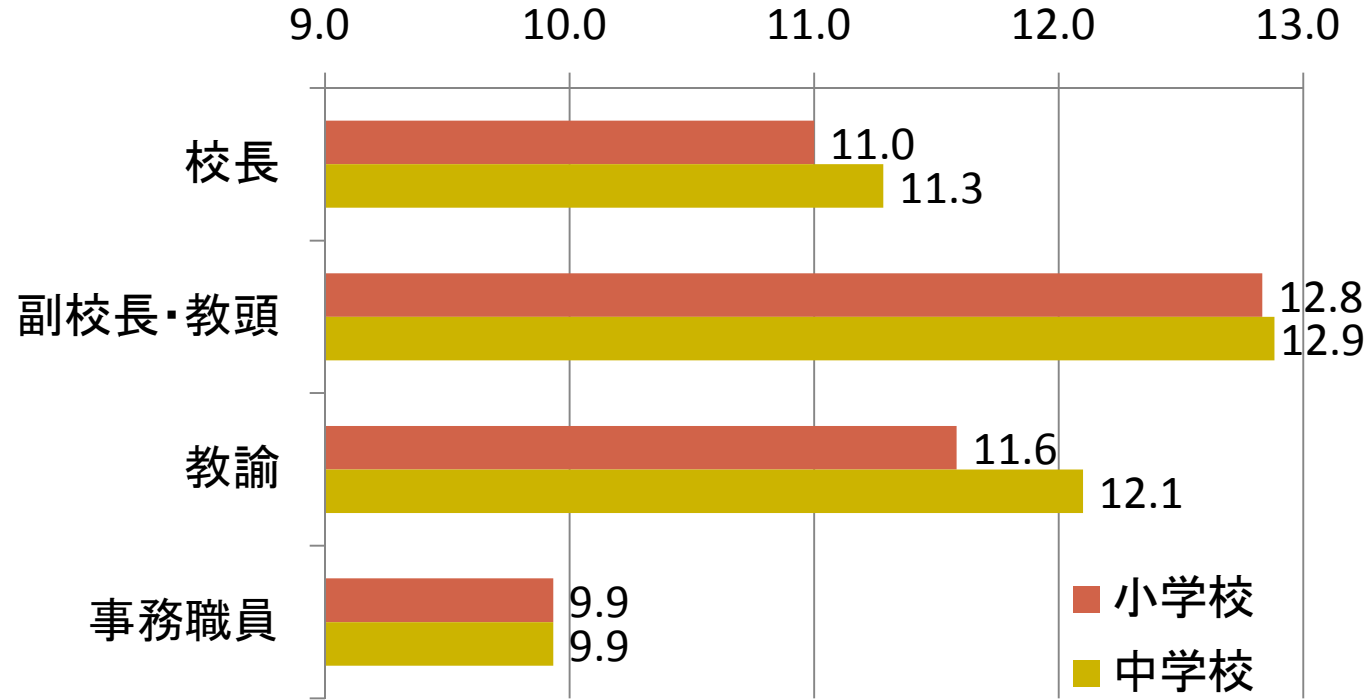


※1: いじめ・不登校・月例報告等

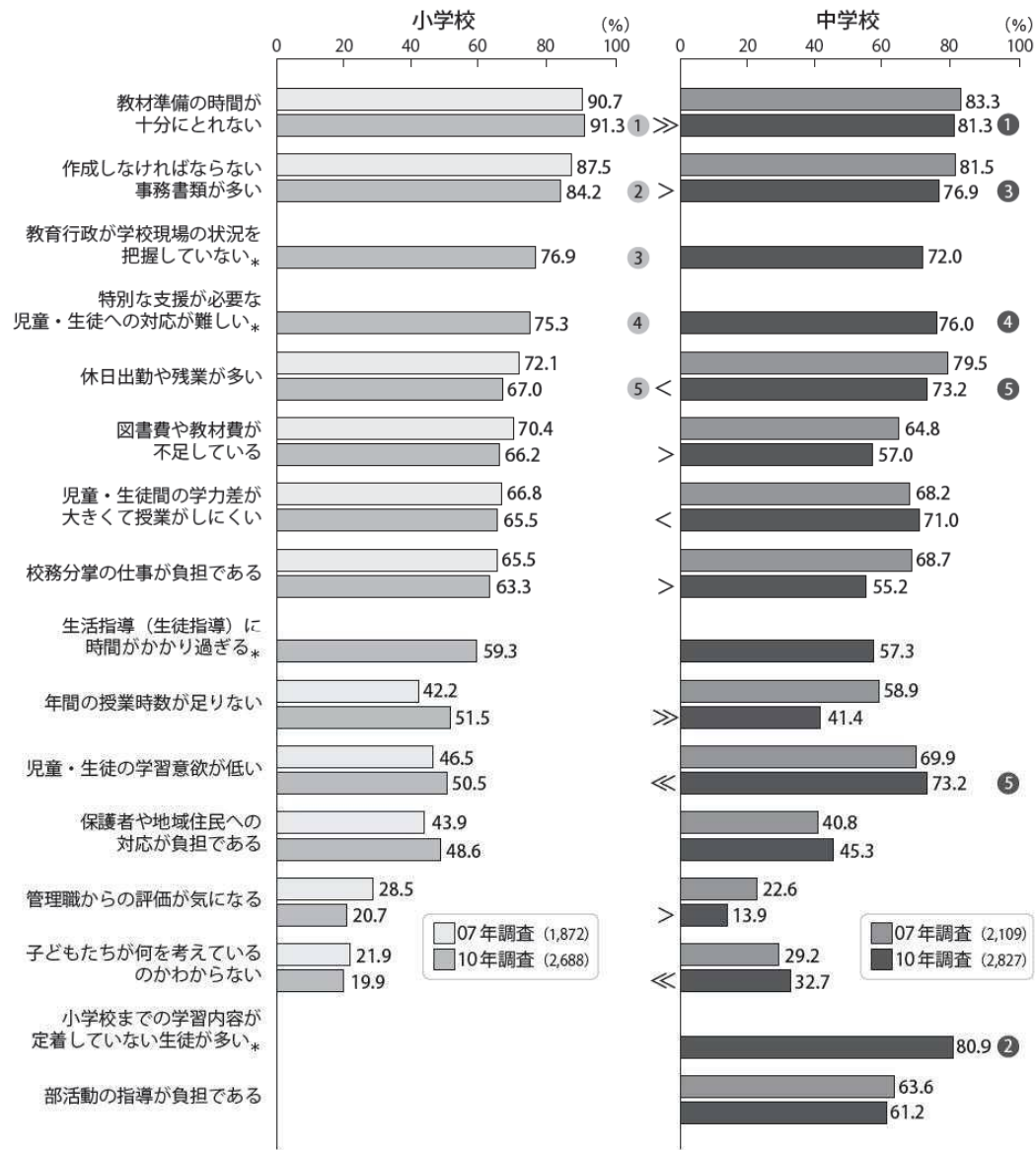
※2: 時間外での家庭訪問, 指導を含む

中学校教諭の在校時間が長くなっているのは、部活動業務の有無による違いと考えられる。

【平日1日あたりの平均在校時間(概算値)】 (単位:時間)



報告書P. 30より
今回の調査時期については、期末テストの採点、学期末の成績処理の時期と重なったこともあり、勤務時間が長くなっていることも考えられる。(～中略～) いずれにしても、今回の調査結果は概算値であり、職種ごとの相対的な比較としてみることはできても、その職種における絶対的な時間として比較はできないということもあり、平均在勤時間という時間、数字のみが一人歩きしないような配慮が必要である。



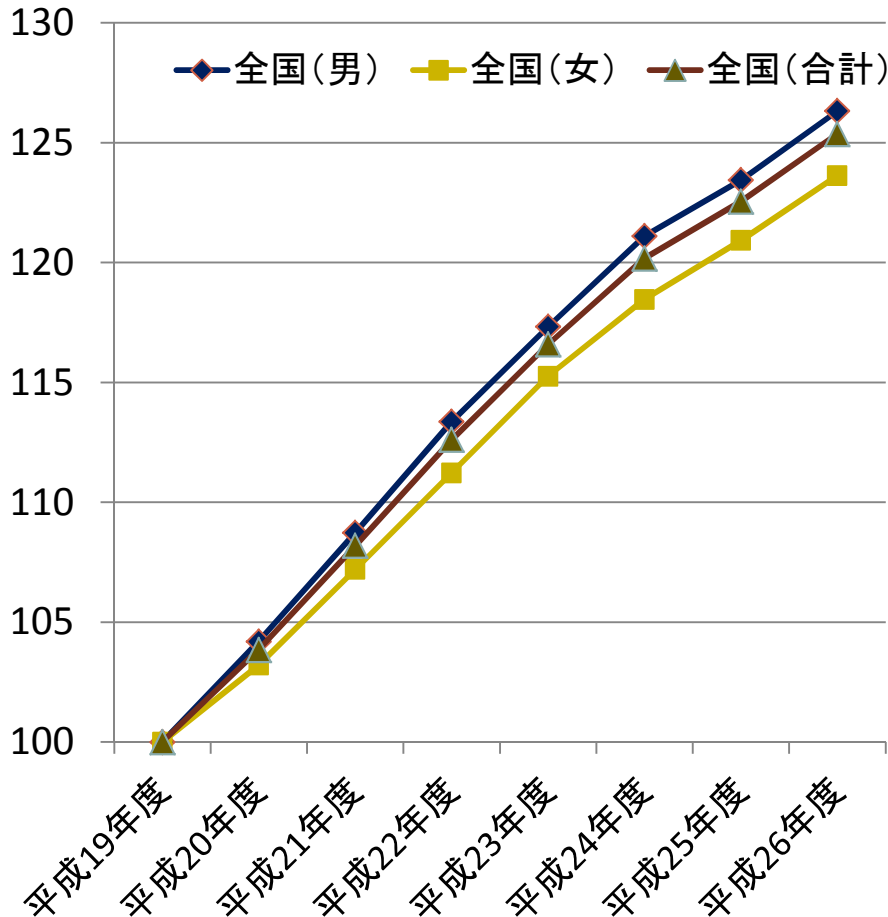
小中学校ともに「授業準備」「特別な支援が必要な児童・生徒への対応」についての悩みが多い。「事務書類」「休日出勤や残業」についての悩みも多いが、割合は減少傾向にある。また、中学校では「学習意欲」「学習内容未定着」の悩みが多い。

注1) 「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%。
 注2) *印は、10年調査より新たに追加した項目。
 注3) 小・中学校のそれぞれ上位5位までを①～⑤、①～⑤と表示している。
 注4) <>は10年調査の小学校教員と中学校教員の数値に5ポイント以上、<<>>は10ポイント以上差があるもの。

特別支援学校, 学級ともに在席する児童生徒数は年々増加。岡山県の特別支援学級に在籍する児童生徒の増加の割合は全国より高い。

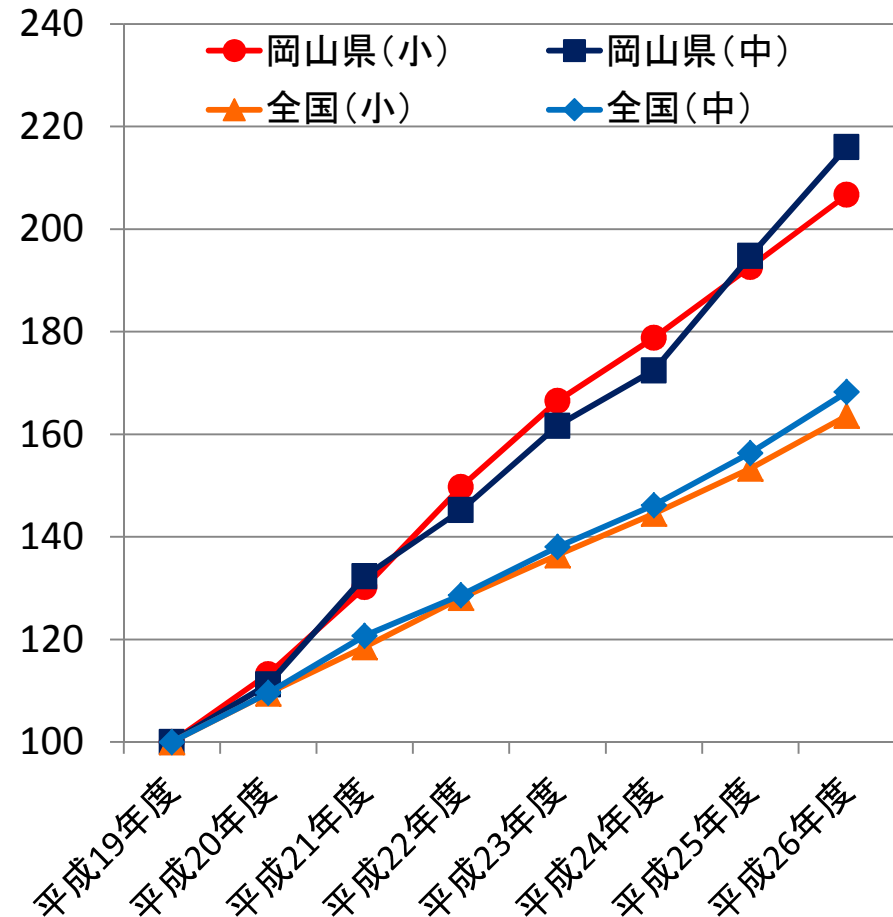
特別支援学校に在籍する児童生徒

(平成19年度を100としたときの割合)

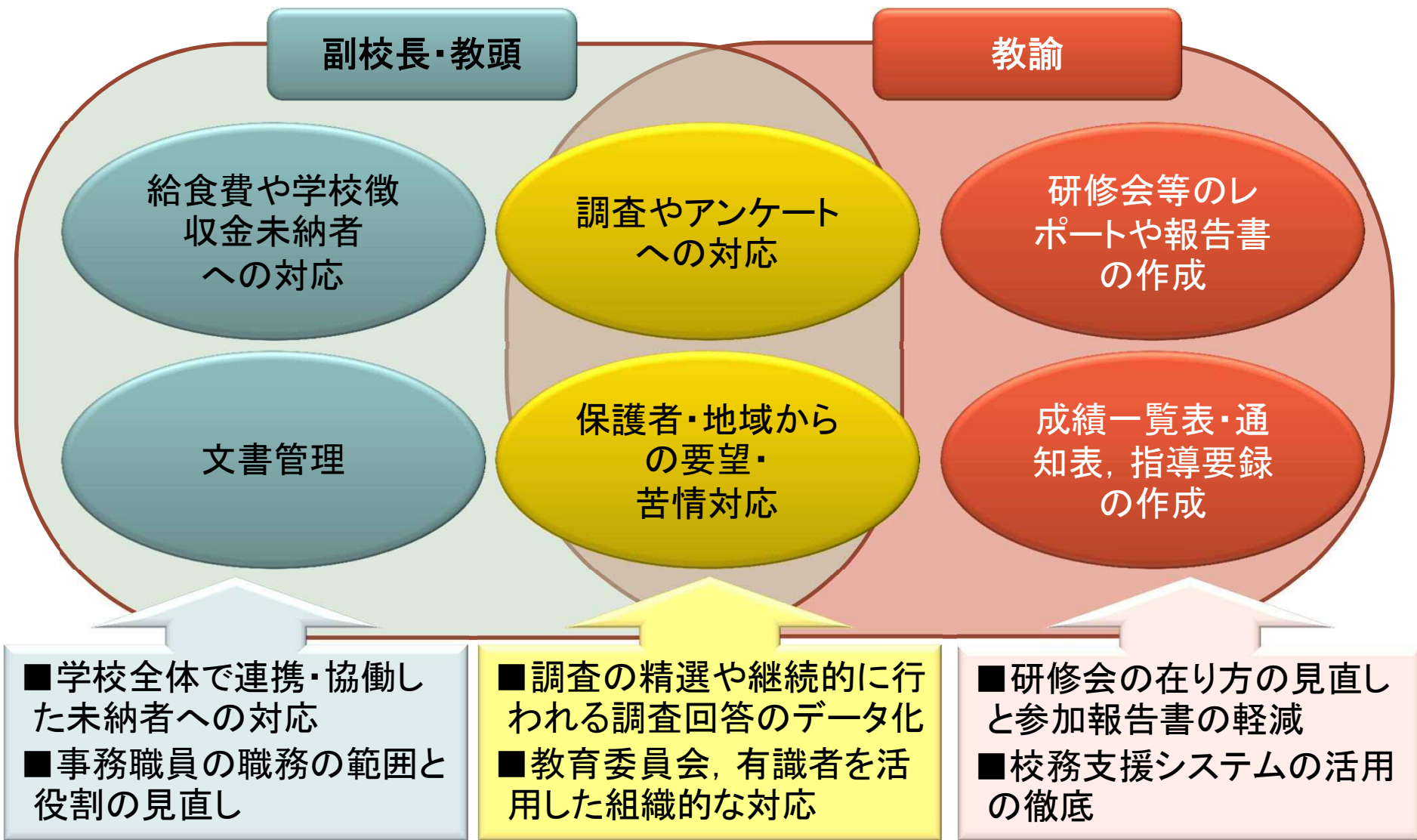


特別支援学級に在籍する児童生徒

(平成19年度を100としたときの割合)



副校長・教頭, 教諭で共通して負担を感じる業務は「調査やアンケートへの対応」, 「保護者地域からの要望・苦情対応」。



学校・児童生徒に係わるご意見等

- 学校が楽しくないと全ての問題は解決しない。学校が楽しい先生と子どもたちをつくるのが一番。まず、**先生が楽しいと思える環境づくり**を。
- 子どもと向き合う時間が不足**していると感じる先生が8割を超えている。
- OECDの国際比較で課外活動と事務作業で他国と大きく違う。事務書類の多さや特別支援の必要な子どもの増加等により**授業準備の時間不足**や**休日出勤残業**が生じ、教師の魅力である**子どもの成長に関わることができていない**状況。保護者からの苦情への対応等には大きな負担を感じている。
- 先生が負担に思うものの必要性を突き詰め、要らないなら思い切ってそれを削除すべき。**先生が嫌がる仕事はやめ**、そのかわり教育に責任を持つ。
- 勤務の時間・内容に強い影響を及ぼしているのは**部活動の指導**。部活動の指導研修を行い、違反者には遠慮させる見直しも必要。
- 評価されることがモチベーションの基本。**褒めるべきところは褒める**。若い先生方の力を伸ばせる学校運営システムも課題。
- 子どもを取り巻く大きな変化が**特別支援と経済格差**で、その対応が課題。
- 特別支援の必要な子どもが年々ふえ**、増加の度合いも全国より大きい。特別支援が必要な子は約1割に上り、特別支援学級だけでなく通常学級にも多く在籍しており、先生も専門知識、技術の習得が必要だが、それが十分できていない。

地域・家庭に係わるご意見等

- 家庭・地域の教育力が弱まっており、お父さん方をいかに教育に引っ張り出すか。そのためには企業との連携が必要。
- 学校を楽しくするために、学生を使うべき。岡山市をいい教育の街にしようという目標を大学生が持ち、大学がバックアップする。子どもや保護者にとって先生より身近だし、学生にとっても教育現場を知ることができる。

